

氏名	井 上 裕 介
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1799 号
学位授与の日付	平成10年3月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系細胞生物学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Ubiquitous Presence of Cellular Proteins that Specifically Bind to the 3' terminal Region of Hepatitis C Virus (C型肝炎ウイルスの3'末端領域に結合する細胞性蛋白質の 普遍的存在)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 山田 雅夫 教授 清水 憲二

学位論文内容の要旨

我々は、hepatitis C virus (HCV) ゲノムの末端配列である 3'-X tail に結合する細胞性蛋白質が存在するの否かをヒト肝癌細胞株 JHH-4 を用いて調べた。競合 RNA を用いた UVクロスリンク実験により、87 kDa および 130 kDa の 2 種類の細胞性蛋白質が 3'-X tail に特異的に結合することを示した。この結合は 5' 側あるいは 3' 側の 1/2 の塩基配列を欠失した 3'-X tail では認められないことから、これら 2 種類の細胞性蛋白質の結合には全長の 3'-X tail が必要であることが明らかとなった。JHH-4 以外のヒト肝癌細胞株 (HuH-6, HuH-7, HLE, JHH-1, JHH-6)、ヒト子宮頸癌細胞株 (HeLa) HTLV-I 感染ヒト T 細胞株 (MT-2)、ならびにヒト繊維芽細胞株 (TIG-7) においても、これら 2 種類の蛋白質が例外なく認められた。また、ヒト肝細胞癌組織においては HCV の感染の有無に関わらず認められ、さらに、ヒト正常組織 (胃, 肺, 心臓, 肝臓, 腎臓, 小腸, 大腸) でも認められた。87 kDa および 130 kDa の 2 種類の細胞性蛋白質は種々のヒト細胞株および組織で普遍的に発現しており、HCV の複製に重要な役割を果たしている可能性を示唆している。

論文審査結果の要旨

本研究は、hepatitis C virus (HCV) ゲノムの末端配列である 3'-X tail に結合する細胞性蛋白質が存在するの否かをヒト肝癌細胞株 JHH-4 を用いて調べたもので、競合 RNA を用いた UVクロスリンク実験により、87kDa および 130kDa の 2 種類の細胞性蛋白質が 3'-X tail に特異的に結合することを示したが、ヒト肝細胞癌に特異的なものではなく、種々のヒト細胞株および組織で普遍的に発現しており、HCV の複製に重要であろうとの知見を得ている。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。